

過去参加者からの声

便利な生活の裏側の重大さを改めて認識（大学生1年生 山田さん）

今回のスタディツアーは普段の私たちの暮らしの见えない部分に気づくことができましたと思います。

特にコンケン市滞在中に訪れたゴミ捨て場は忘れられないものでした。訪れる前はそこで暮らす人々にはあまり明るい印象を持っていませんでした。しかし実際にそのような場所に行ってみるとそれは固定観念であって偏見であることに気づきました。このゴミ捨て場に暮らす人々と生活環境改善に努めるゴーウィットさんは、「街に住む人々は捨てる一方だけれど、彼らはそこから再び使える物を取り出すことで社会の一員として生きているんだ」と言いました。実際に自分がゴミの中に入って行ったときにその重さと意味が分かりました。住民たちは苦勞しながらも自分たちの生き方に誇りを持っていました。実際行って見て私たちの便利な生活の裏側の重大さを改めて認識できました。また想像していたのと唯一違っていたことはそこで暮らす人々の誇りと力強さでした。



本を読んだり授業で学んだりして頭の中でイメージを持ち膨らませていくことも大事だと思いますが、それだけでは分からない部分を今回のスタディツアーで吸収することができ自分の視野が広がったと感じました。これから同じような問題に直面している他の国、日本国内の地域について考える際にこのスタディツアーで学んだことを活かして自分なりの解決策を考えられるようにしていきたいと思います。

現場に行って、見て、やってみないとわからない（大学2年生 大島さん）

今回ツアーに参加した一番のきっかけは農業に関心があったことからでした。ツアーでは農業を通して、地域活性化から地球環境まで様々なことを学ぶことが出来ました。

農作業体験では、一人一本マンゴーの木を植えました。土を鍬で掘って木を植えます。土は思った以上に硬く、また鍬も重いのでとても力がいました。汗だく・泥まみれになって穴を掘りました。そしてようやくマンゴーを植えた時には、なんともいえない感動が心の中にこみ上げました。「植える」と言葉で言うのは簡単です。しかし実際にやってみなかつたら、土を掘る過程の大変さや、マンゴーを植える時の感動は決して味わえなかつたと思います。実際に現場に行って、見て、やってみないとわからない。それがツアーで学んだ大きなことのひとつでした。



また全体を通して感じたのが、人とのつながりの大切さでした。ポンの朝市の人々は、自分たちの問題に気付いたとき、みんなで話し合い確認しあうことから始めたといいます。一人では出来ないこともみんなで協力して発動することで、ものすごいパワーが生まれ、またそこから本当の笑顔が生まれる、それを目の当たりにして人と人が手を合せて生きていくことは素晴らしいことだと思いました。今、日本に帰ってきて「あの村の人たちはどうしてるかな？、元気かな？」とタイにいる人々のことを考えたり想ったりできることがとても嬉しいです。今まで遠かったタイが身近に感じられるようになりました。



今回のツアーで得たものはとても多かつたと感じています。その中でもたくさんの人と出会い、実際に近くで生の声を聞き、意見を交換し合えたことが私にとって一番の財産になりました。温かく迎えてくれた現地の方々にとっても感謝しています。参加して本当によかつたです。